

女性委員会ニュース



NO. 63

連合山形女性委員会
発行人 大沼 香絵
TEL.023-625-0555
FAX.023-624-7661

今年も「女性委員会役員と三役との対話」を開催します。

今年で3回目となる「三役との直接対話」を今年も実施します。

対話内容は、「2016トップリーダー男女平等参画推進宣言」と現在調査中の「産別・単組における男女平等参画調査」と「昨年懇談した時に説明を受けた内容の進捗状況」等について意見交換をします。

さらに、昨年から開催した職場見学等も実施する予定です。

8月19日 (金)			8月23日 (火)			8月31日 (水)		
時間	三 役	場 所	時間	三 役	場 所	時間	三 役	場 所
10:00 } 11:30	小口副会長 (県教組)	教育会館	10:00 } 11:30	森副会長 (自治労)	自治労県本部	10:00 } 11:30	井上副会長 (電機連合)	大手門パルズ
13:00 } 14:30	伊藤副会長 (JP労組)	J P 労組	13:00 } 14:30	伊藤副会長 (電力総連)	東北電労	13:00 } 14:30	角谷副会長 (UAセンセン)	大手門パルズ
15:00 } 17:00	丹野副会長 (情報労連)	NTT東日本サービス (山形116センター見学)	15:10 } 17:00	金子副会長 (JAM)	かわでん労組 (かわでん見学)	15:00 } 16:30	水戸副会長 (交通労連)	第一貨物労組

2016 トップリーダー 男女平等参画推進宣言

6月は 男女平等 月間

岡田 新一
日本労働組合総連合会山形県連合会 会長
山形県内での全雇用者における女性の割合は年々上昇し、5割近い状況となっています。働く女性がますます増えるなかで、「持続可能な社会」に向けて、男女平等参画の取り組みは重要な課題となっています。とりわけ、男女が共に均等な機会と待遇で仕事と家事・育児・介護を両立できる環境づくりが重要です。そのために、連合山形は「連合山形第4次男女平等アクションプラン」(2014年~2020年)達成に向けて全力で取り組みます。

井上 雄吾
連合山形男女平等委員会委員長
「男女平等参画推進委員会」で実施したアンケート結果から明らかになった課題①労働組合としての「男女平等」に対する取り組み姿勢の課題 ②労働組合が取り組む「男女平等参画」の活動に対する理解が得られていないという課題 ③各種制度に対する認知度が低いという課題について、具体的な活動方針を立て積極的に推進し、男女が共にいきいきと活躍できる職場環境づくりに取り組みます。

小口 裕之
日本教職員組合山形県教職員組合(県教組) 執行委員長
子どもたちを送り出す社会が、男女が平等に活躍できる社会になるよう推進計画をもとに県教組を挙げてとらんでいきます。女性の社会参画にも議論を深めていきます。

水戸 吉一
全国交通運輸労働組合連合会山形県連合会(交通労連) 委員長
トラック、バス、ハイヤー・タクシーなどの交通運輸業は、典型的な男性中心の労働業態であり、女性の参画が遅れています。一方で観光環境による雇用増や労働者の高齢化等によって、人手不足が深刻な状況にあります。私たち交通労連は、男女平等参画社会に向けて、働く人たちの意識改革に向けた取組みや、働きやすい職場環境の整備や制度の実現に向けた取組みを企業や業界団体と連携強化してまいります。

森 伊織
全日本自治労連労働組合山形県本部(自治労) 執行委員長
男女平等参画を自治労連動すべてに関わる課題として捉え「雇用主要求による男女平等の実現」「地方・国への政策要求による男女平等の法制度・社会環境の整備」「労働組合における男女平等参画」の実現をめざし取り組みます。

丹野 忍
情報産業労働組合連合会山形県協議会(情報労連) 議長
私は、第2次男女平等参画推進計画に基づき、浸透・展開・参加・育成を軸に計画策定100%、指導的地位の女性割合30%、女性参画率30%、組織の女性役員選出100%など6月を啓発月間に掲げ取り組みます。

角谷 俊一
UAセンセン山形県支部 支部長
「女性総活躍社会」は、長時間労働が美徳とされてきた男性中心の社会構造を転換し、企業の成長と子供の成長も同時にできる働き方を構築しなければなりません。労働組合とそのリーダーは、幸せを実感できる社会の実現に今こそ取り組まなければなりません。

伊藤 幹男
山形県東北電力労働組合山形県本部(電力総連) 会長
電力総連は、「男女が平等にいきいきと働くことができる職場や社会環境づくりのための方策」を策定し、仕事と育児・介護の両立支援を一層推進するため、男女共に子育てや介護をしながら働き続けることができる職場環境の整備と、女性活躍推進に向け、職場実態や課題の把握を行いながら行動計画に反映するよう積極的取り組みを進めています。

伊藤 篤志
全日本自動車労働組合連合会山形県協議会(自動車労連) 議長
女性が活き活きと活躍できる職場の拡大、仕事と家庭の両立実現(ワーク・ライフ・バランス)に向け、共に働く仲間同士が協力し合う職場づくりに積極的に推進します。

大場 暁
全日本運輸労働組合連合会山形県協議会(運輸労連) 執行委員長
組織を活性化させ、社会を前進・発展させていくためには、女性の組合活動への参画が必要不可欠です。運輸労連は、男女平等参画の推進に向け、女性役員の登用、組合会議への参加率向上、女性が安心して働ける職場など環境整備に取り組んでいます。

大橋 清美
全労連労働組合連合会山形県本部(全労連) 会長
2013年度に策定した「男女平等参画・均等参画推進計画」にもとづき、(1)労働組合活動への男女平等参画の実現、(2)男女ともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み、(3)均等・均衡参画の実現に向けた取り組みに継続して取り組んでいます。

渡辺 裕
全日本建設労働組合連合会山形県協議会(建設労連) 議長
JRC総連は、個人の尊重と法の下の平等・男女平等がうたわれている日本国憲法を守り、女性の視点と声を大切に、ワーク・ライフ・バランスの充実と働きやすい職場環境の実現と、男女が平等に参画する社会の実現をめざし取り組みます。

豊丸 淳
基幹労働女性組合連合会山形県本部 委員長
基幹労働女性組合連合会の比率は約8%となく、労組組合が中心になっております。男女平等参画社会の実現には、私たちが目指すワーク・ライフ・バランス社会と密接な関係があり、男女共に仕事と生活の調和をとり、生きがいや働きがいのある男女平等社会をめざす事がポイントです。さらなる女性の組合活動への参画に向け、女性若手組合員の意見や声をしっかりと反映させるよう、積極的参画を推進してまいります。

佐藤 亮
日本教職員組合山形県高等学校教職員組合(高教組) 執行委員長
誰かが我慢するのではなく、誰もが平等で共生する社会を子どもたちにつなげたいと運動しています。それは両性双方からの視点と、それぞれが家庭や社会活動に自立して参加することが不可欠です。ワーク・ライフ・バランスが取れているか？高教組では自らの働き方に向き合うことを呼びかけています。

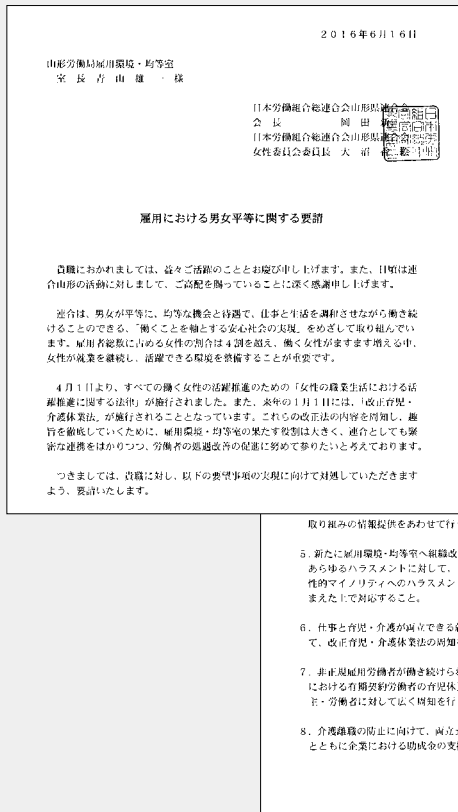
原田 薫
公益社団法人東北地区山形県協議会(公益社協) 議長
女性の活躍の推進、仕事と生活の調和等のために構成組織の全組合員が男女平等参画への意識を高め、男女がともに参画しやすい条件整備など一層の取り組み強化を図っていきます。

佐藤 剛
全日本森林労働組合連合会山形県協議会(森林労連) 議長
森林・林業を相手とする業種、女性組合員が占める位置、割合はまだ低い状況にあります。青年女性委員会を中心に女性運動の意識向上と職場実態改善をはかるため、女性集会所の開催や職場実態調査から要求につなげ、男女平等・女性活動の強化に取り組んでいます。

芳賀 晃一
東北労働組合連合会山形県支部 支部委員長
男女平等共同参画社会の実現に向けて、男女ともに安心して働き続けられる職場環境をつくるために活動を進めます。労働組合への女性組合員の積極的な参画、組合役員への女性組合員の選出を進めるため環境整備に向けた具体的な取り組みを検討します。支部男女平等対策委員会を組織し、支部女性集会所を開催し、議論を深めます。

連合山形は、雇用における男女平等の推進と、男女平等の視点に立った社会制度・慣行の見直しを推進します。

「山形労働局へ要請行動」と 「山形県知事との懇談会」を開催！



連合山形女性委員会は、6月16日山形労働局雇用環境・均等室青山室長に「雇用における男女平等に関する要請書」の手交を行いました。4月1日施行された「女性の職業生活における活躍推進に関する法律」と来年1月1日施行予定の「改正育児・介護休業法」の内容周知と趣旨を徹底していくために労働局雇用環境・均等室の果たす役割は大きいものであるため、女性が就業を継続し、活躍できる環境を整備されるよう、その促進をはかるための要請書です。

女性委員会メンバーは大沼委員長をはじめ9名、山形労働局側は青山室長はじめ3名での対応となり、その後約1時間、女性活躍推進法に基づく行動計画策定の現状や活用等、それが今後実効あるものとなるように現場の声を伝えてきました。

女性も男性も性的マイノリティの人たちも、自分らしく働き、生活できる社会を作り上げるためには、こういう現場の声を届けていくことで、少しずつ働く環境が改善していくのだと感じました。小さな一歩も、積み重ねていくことで大きな一歩にしていきたいと思います。



環境が改善していくのだと感じました。小さな一歩も、積み重ねていくことで大きな一歩にしていきたいと思います。



引き続き、午後からは吉村山形県知事を訪問、懇談会を開催しました。吉村知事からは山形県においての「男女が共に働き共に育む社会づくり～“やまがたウーマノミクス”の推進～」 「子育て支援の充実・強化～保育人材の確保～」の取り組みの説明がありました。「女性が活躍していくために、旗振りが必要。男女が共に働き、育む社会にはロールモデルも重要。女性知事と言われるが、“女性”としてというより、“一人の人”として仕事をしています。」と言われていたことが印象的でした。

「2016山形県男女共生集会」を終了しました



連合山形男女平等行動委員会主催で、5月24日大手門パルズを会場に47名（男性28人・女性19人）の参加者を集い「2016山形県男女共生集会」を開催しました。

今年は若年層を対象とした学習会とし、アサーティブジャパン事務局長の牛島のり子さんを講師に迎えロールプレイ中心のアサーティブ講座をおこないました。この講座は、自分の気持ちや意見を誠実に、率直に、対等に表現するトレーニングでした。さらに、職場・組合・家庭で相手に言いにくい事例のロールプレイを行い、相手に受け入れてもらえるように伝えるコミュニケーションスキルを学びました。

参加者からは、「メンタルヘルスの講演はこれまでも何回か聞いた事がありましたが、「アサーティブ」という聞きなれない単語に興味を持ちました。」「講師の牛島さんの講演は全員参加型で、参加者の寸劇あり、笑いあいの楽しい内容でした。」「職場や家庭や色々な場面でのコミュニケーションの重要性と、そのコミュニケーションスキルのひとつが「アサーティブ」＝「自分も相手も尊重した伝え方」「適切な自己主張」という事がわかりました。」「相手が誰であっても“誠実に、率直に、対等に、責任をもって向き合うこと”が良好な関係を築いていくためには大切だと改めて感じ、これからの生活に「アサーティブ」を取り入れていきたいと思いました。」などの感想が寄せられました。

